

1 学校課題

「自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成」

～一人一人の力を高め、思考を広げ表現できるようにする取組～

2 研究計画

(1) 課題設定理由

本校では、数年前から、コミュニケーション力を育成するために、自分の思いを言葉にして伝え合うための取組を続けてきた。昨年度までの研究で、みんなの前で発表する技能が向上し、少人数での話し合いがスムーズに進められるようになってきており、発表や話し合いの場での表現力については少しずつ成果が表れてきている。しかし、型通りではなく自分の言葉できちんと伝え合うには、まだ語彙力が十分とは言えない。また、書くこと、読むことなどで困難のある児童がどの学級にもいるが、適切な支援で十分にその力を伸ばしているとは言えない。さらに、話し合い活動だけでは、思考力やその伸びを明確に見取ることが難しく、効果的な支援につながりにくいということも課題として残っている。

伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、個に応じた適切な支援にも努め、言語活動を通して思考力・表現力の向上をめざして研究を進めていくものとする。

(2) 研究の仮説

- ・国語科で「単元を貫く言語活動」の展開を工夫していくこと、さらに他教科での言語活動の充実にもつなげていくことにより、語彙が豊かになり自分の言葉で表現できる児童が育成できるのではないか。
- ・「話すこと」「書くこと」を日常の教育活動に取り入れて、個に応じた支援を充実させ、表現活動を習慣化していくことで、基礎的な語彙力がつき、思考力の育成につながるのではないか。

(3) めざす児童像

- 低学年・・・友達の発言をきちんと聞き、それに対する意見をわかりやすく伝え、思いや考えを広め合える。
- 中学年・・・相手や場を意識して互いの意見の共通点や相違点を考えながら伝え合い、思いや考えを高め合える。
- 高学年・・・目的や意図に応じて思いや考えを伝え合い、互いの意見を比較しながら考えを深め合える。

3 研究内容

(1) 研究授業を通しての課題への取組

期日	学年	単元名	育てたい力	課題との関連(手立て)
7/7	2年	本はともだち 「黄色いバケツ／お話の国の友だち」 (国語)	・物語の人物の行動や会話に着目して想像を広げながら読む力 ・物語の人物の気持ちや様子を自分の言葉で表現する力	①学習形態の工夫 ②並行読書の励行と読書活動の工夫 ③ワークシート・板書の工夫
9/10	4年	調べて発表しよう 「だれもがかかわり合えるように」 (国語)	・自分の話題を決め、必要なことを調べて要点をメモする力 ・相手や目的に応じ、事例や理由を挙げながら筋道立てて話す力 ・話の中心に気をつけて聞き、質問や感想を述べる力	①ワークシート工夫及び辞書の活用 ②学習形態の工夫

10 ／ 15	5 年	だれもが人として 4－(2)公平公正・正義 「マーチン少年の 夢－キング牧師」 (道徳)	・自分の思いや考えを伝え合い、 互いの意見を比較しながら考え を深められる力	①学習形態の工夫 ②ワークシートの活用
11 ／ 19	1 年	くらべてよもう 「じどう車くらべ」 (国語)	・事柄の順序を考えながら内容 の大体を読む力 ・「しごと」「つくり」などの大 事な文を書き抜く力	①学習のユニバーサルデザイ ン化 ②ワークシート・板書の工夫 ③学習形態の工夫 ④並行読書の励行と読書活動 の工夫
11 ／ 19	6 年	地球に共に生きる 4－(8)国際理解 「難民に思いを寄 せて」 (道徳)	・目的や意図に応じて思いや考 えを伝え合い、互いの意見を比 較しながら考えを深め合える力	①学習のユニバーサルデザイ ン化 ②ワークシートの工夫と活用 ③学習形態の工夫
12 ／ 22	3 年	組み立てを考えて 物語を書こう 「三年とうげ」 (国語)	・物語の組み立てをとらえ、登 場人物の心情の変化や情景を想 像する力 ・文章の組み立てを理解し、そ れをつかった文章を構成する力	①場面ごとの読みを書くこと に活用(A Bワンセット方式) ②学習のユニバーサルデザイ ン化 ・焦点化(シンプル) ・視覚化(ビジュアル) ・共有化(シェア)

(2) 個に応じた支援についての研修

宇都宮大学教育学部准教授 原田浩司先生を講師に、個に応じた適切な支援についての研修を実施した。事前に決めた視点児童について、アセスメントデータを基に、その子の特性の理解と支援の手立てについて、専門的な立場から具体的なアドバイスをいただいたり、読みのアセスメントの実施方法や結果の解釈等について教えていただいたりすることができた。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・単元を貫く言語活動の型がいくつか提示されたことで、国語の単元構成の仕方の方向性が明確になり、児童も単元のめあてをはっきりさせて学習に取り組むことができた。
- ・ユニバーサルデザインの授業のアイデアを含む教材や展開の工夫が示され、少しずつ活用されつつある。また、対象とした視点児童のみならず他の児童にも有効であることが確認された。
- ・ペアや小グループでの話し合いや質問の仕方など、伝え合いの型を身に付けることができた。相手の考えを聞くことによって、学習内容の理解度が高まった。

(2) 課題

- ・小グループでの話し合い後、それを全体での話し合いに生かせるようにつないでいく方法や個別の支援の仕方、全体の児童への支援の仕方を工夫して、一人一人の力に対応できるようにすることが大切である。伝え合う力を高めるため、学年に応じた具体的な話し方の例を明らかにしていきたい。
- ・児童の実態に合った「単元を貫く言語活動」の構成や展開をさらに工夫していきたい。
- ・ユニバーサルデザインの授業の研修の機会を設け、アイデアを共有できるようにしたい。
- ・読みのアセスメントの継続と有効な活用法を工夫していく必要がある。学年に応じて身に付けるべきこととその手立てを明確にしていきたい。
- ・基礎学力の定着を図るために、授業中での配慮だけでなく、授業以外でも必要な力の補強、強化ができるよう、朝の学習や「デキルヨ学習」の見直しをしていく必要がある。
- ・思考力を高めるため、じっくりと聴く「受動的積極性を高める学び」を模索していきたい。